

令和4年度北海道地域評議会報告

1. 開催日時・場所

令和5年2月22日（水）14時00分～16時30分
森林総合研究所北海道支所 大会議室（オンライン併用）

2. 評議会委員

中野 亨 委員（北海道森林管理局 森林整備部長）
笠井美青 委員（北海道大学大学院農学研究院 准教授）
谷 一之 委員（下川町長）（欠席）

3. 出席者

北海道支所：支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監、チーム長（4名）※、
グループ長（4名）※、地域連携推進室長、総務課長
北海道育種場：場長、連絡調整課長※、育種課長、育種研究室長※、
遺伝資源管理課長※、育種技術専門役※
北海道水源林整備事務所（オブザーバー）：所長※、次長※
※ オンライン参加

4. 評議会内容

(1) 令和4年度活動報告

森林総合研究所全体の組織・課題構成等を共通部分として紹介した後、北海道支所と
林木育種センター北海道育種場の組織、課題構成、資金、連携・橋渡し状況、行事及び広
報活動についてそれぞれ説明を行った。

(2) 北海道支所研究紹介

- ①「SWATを用いた山地森林流域における水および懸濁物質流出量の再現」
- ②「トドマツ溝腐病（幹辺材腐朽病）の病原菌モミサルノコシカケを接種して20年
経過したトドマツの材内における腐朽の進展」

(3) 北海道育種場研究紹介

「トドマツ種子の発芽率向上に資する技術開発 –精選および低温湿層処理の最適化–」

5. 評議会委員からのコメント・助言

- ・昨年はウェブでの参加だったが、今年は会場で直接成果を聞いて支所と育種場の取り組み
状況がよくわかった。国有林をフィールドとして活用しさらに様々な研究をしていただき
北海道の地域に連携して協力していきたい。

- ・私は森林科学科に所属しているが砂防が専門で、森林のことはあまり気にしていなかったが、話を聞いて森林のことにもっと着目したいという気持ちが強くなった。森林総研では質の高い研究をされているので今後も勉強させてもらいたい。
- ・北方人工林施業に適した低コスト生産システムや林木育種基盤の充実による多様な優良品種の開発は、苗木不足や造林事業の労働力不足などの課題に対し、効率的に役立つので、今後も研究開発を続けてほしい。また、ゼロカーボン社会の実現に向けて、環境問題に取り組まなければならないが、エネルギー自給率の向上のためには、木質バイオマスエネルギーの社会実装拡大が必要なため、森林総研で培った研究成果を還元してほしい。